

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホーム独自の長期・短期努力目標を立てて、日々努力している。また、短期努力目標に対しては3か月に一度職員で評価している。各職員の名札の裏に記載している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営理念に基づいて職員全員で、日々ケアの実践に向けて取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>年4回のホーム便りを家族に送り、地域の方には公民館などに置き、地域を理解してもらえよう努力している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近くの六地藏の参拝などで、顔なじみになった人や祭りなどで知り合った人と、挨拶などを気軽に交わしている。子犬を飼って近くの子供達がホームへ立ち寄ったり、犬の散歩の時立ち話ができるお付き合いをしている。</p>	<p>○ 今後も、日常的な付き合いを継続していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>孤立することなく、地域の一人として、行事などに参加したり利用者の作品などを展示するなど、地域活動に参加して交流に努めている。</p>	<p>○ 六地藏盆供養への招待に参加、地区社協の打込みうどん、クリスマスギターコンサート、地域の運動会や文化祭等への参加を継続していきたい。また、地域ボランティアの人に行事に来ていただき協力していただいている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者などの暮らしに役立つよう、希望があれば研修、見学の受け入れを行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして、日々努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、意見などをサービス向上に活かして実施している。	○	地域のボランティアの方や、地域行事などの情報収集し、これからも参加していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点があれば、市の担当者に質問、相談し連携を取り、介護相談員の施設訪問を受け、その時情報交換しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるよう支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法などの研修会に参加したり勉強会を持ち、防止に努力している。	○	今後も勉強会を実施し、虐待防止について職員間の徹底を図っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明を行い、理解と納得を図って決定している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情などを入れる箱を準備すると共に、受付担当を設置している。また、第三者委員を設置し苦情解決に努めている。その意見は運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動などはホーム便りで定期的に報告し、金銭管理が必要な入居者については、家族に小遣い帳の利用、出納状況を明らかにしている。健康状態は、面会時もしくは電話で連絡を取り合っている。	○	健康状態の変化や受診時の医師による病状説明を、直接または電話で伝えており今後も努めていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情等を入れる箱を準備すると共に、受付担当を設置し、その意見は運営に反映させている。社会福祉法人で第三者委員を設け委託している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月合同ミーティングを持ち、意見や提案を聞く機会や場面を設け、反映できるように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化に応じて、職員の確保ができています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が継続した支援が受けれるように、認知症介護経験を考慮するなど職員の異動などに配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護、助言、指導を受けたり、資料文献の提供、スーパーバイザーの研修を受け勉強している。グループ内の研究発表会にも参加している。	○	法人内での年間計画を立案して、グループ内外の研修参加を勧めている。また、段階的に認知症介護実践研修の受講を計画している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや相互訪問などの取り組みに努めている。	○	香川県グループホーム協議会への参加や、同業者の研修場を提供しており、今後も継続していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦を図るように努めている。親睦旅行・忘年会など実施し、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。シフト表も本人希望を優先し作成している。	○	ストレス軽減のためにリフレッシュ休暇が活用できるようにしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持って働けるように個々の職員の意見を聞きながら、勤務状況の把握に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係作りと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どんな時でも本人が困っていること、不安なこと、求めていることなど、寄り添い聴き受け止める努力をしている。		
24	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族会や面会時を利用して近況報告を行い、カンファレンスを実施し、家族からの希望など受け止め、信頼関係を築いていけるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内の活性化を図るため、本人・家族の要望やリハビリを兼ねてデイケアへ行っている。また、訪問看護なども立ち寄ってくれている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してできるように、家族や職員と一緒に見学したり、顔なじみの利用者と一緒に行き、雰囲気になじめるように工夫している。	○	サービス利用の必要性がある時は、本人、家族と共に訪れ、雰囲気に慣れるように工夫している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理作りや畑作りを一緒に行ったり、若い頃の育児の苦労を振り返り、人生の先輩として多くのことを学んでいる。そして暮らしの中で支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や、家族会などで本人の変化や嬉しい出来事など話したり、家族の本人への思いなどを傾聴して支えあう家族との関係づくりができています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を年4回開催している。家族の面会の少ない人も、家族会の参加の際楽しい1日が過ぎて、よりよい関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように、犬の散歩や祭りなどで交流の機会を十分持ちながら暮らしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、気の合う人と入浴したり、話しの合う人同士一緒に椅子に座るなど、関わり合いの場所づくりをして、孤立しないように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなった後も家族が立ち寄って、職員と思い出話をしたり、慰労の言葉をかけてくれている。	○	これからも、家族との交流は継続的に図っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望は、本人から意向を聞きながら把握に努め、職員間で話し合い検討し努力している。	○	本人の意向を尊重し、生活支援の充実を図るよう努力していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、職員からの情報を基に、センター方式によるアセスメントを行い、課題を明らかにしている。	○	認知症が進んでも、これまでの生活歴を把握して、利用者の望む暮らし方を提供したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームの設計上、全体が見渡しやすい。また、常に職員の五感を働かせ、見守りにより位置と様子を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のユニット合同ミーティングを行い、随時、ユニットごとのミーティングで意見やアイデアを出したり、利用者が利用しているデイケアのスタッフとも話し合いの場を持ち、介護計画を作成している。	○	ミーティングの中での気づきから、本人のより良い生活、暮らし方ができるように、介護計画の中に活かせるよう努力していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度見直しをしているが、状態変化に応じてアセスメントから随時見直しを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャージング(記録方式の一つ)を利用し、個別の記録をしている。日々の様子やかかわり、ケアの実践を職員間で情報共有し介護計画の見直しに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、柔軟な支援をしている。家族が宿泊したい時は、居室に本人と家族が泊まることも支援している。	○	遠方から面会に来た家族への支援について、今後柔軟な対応を継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	敬老の日、高齢者表敬訪問、友愛訪問など、必要に応じて各機関などと協力し、力を借りながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のケアマネジャーとの情報交換や、デイケアを利用するための話し合いを行い支援に努めている。	○	他の事業所へ移動する時には、情報提供表の作成、添付を行っており今後も継続していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、対象者はいない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族等の希望に沿って受診している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医師に受診する体制が整っている。病状変化のある時は、主治医との連携を図り、専門医の診察治療をうけている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週2回、定期的に訪問看護師が来る際、気楽に相談し、健康管理や医療連携支援体制ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	地域の医療機関と協力を結んでおり、常に情報交換は行っている。また、早期退院時にも、必要に応じて往診や訪問看護が受けられるように体制を整えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医と繰り返し話し合い、職員間でも何度もミーティングを行い方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療との連携を取りながら、支援に取り組んでいる。また、グループホーム独自で看取りに関する指針を作成している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所に移り住む際は、家族や本人の理解を十分得るよう、関係者間で情報交換を行なっている。また、家族会では、ダメージを少なくするよう特別養護老人ホームなどを利用し、施設紹介を行なうなど、住み替えに負担がないよう努めている。	○	家族会の時、特別養護老人ホームのホールを借りて実施するなど機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。また、随時、職員間で注意やフォロー、指導を行なっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の後方から突然対話せず、正面から目の高さに合わせて対話している。本人のニーズに合わせたコミュニケーションを図るように心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自由に起床・食事・入浴・就寝などを、本人の生活リズムに合わせて、その人らしく暮らせるよう配慮し支援している。	○ 利用者一人ひとりのペースを今以上に把握するために、今後は24時間シートを活用するなどの工夫をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人の好きな洋服や髪型や馴染みの店などに行き、一人ひとりの個性に沿ったおしゃれを支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが持った力を活かして、利用者と職員が料理作りをしている。特に日曜日は、利用者とメニューを考え買い物にも一緒に行って好みに合った食事作りをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む好みの物を、一人ひとりの状況にあわせて、日常生活の中で支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのトイレサインを把握した上で支援し、排泄表を作成してパターンを把握し介助している。	○	排泄表を活用して、一回でも多くトイレでの排泄を心がけていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	主に日中入浴を行っているが、時間の長さや回数などは、一人ひとりの希望に合わせるように努力している。また、気のあった人と一緒に入浴を楽しまれている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中体を動かすことによって、安眠を促すよう支援している。どうしても眠れない人は、お茶飲んだりお話ししたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、入居者や家族との会話のなかで情報を得て、入居時、家族が記入した生活暦を活用し、その人らしい役割や喜びのある日々を、過ごすことができるようにケアに活かしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない入居者は、小遣いに関しては職員と入居者が一緒に管理している。所持できなる人は、希望に応じて買い物に行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの健康と希望に沿って、戸外に出かけられるように支援している。特に天候にもよるが車でのドライブや犬の散歩、買い物などを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者にどんな所へ行きたいか聞き、家族会などを利用して普段行けそうにない場所へも、出かけられる機会をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内の公衆電話を利用して、家族と連絡している。また親戚の方などからはがきや、手紙などが届いたり返事を書いたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	事業所への面会は、いつでも訪問ができるように工夫している。時々、季節の花や野菜を持って立ち寄ってくれる。	○	今後も、継続して取り組んでいきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアの実践をしているが、安全のために必要な時は、家族に説明して同意を得て実践することもある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけていない。常に職員が危機感を持ち見守りや感知センサーで対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜通して、入居者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、事務所の鍵のかかる場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のマニュアルを作り、日々知識を学び、一人ひとりの状態に応じた防止に取り組んでいる。	○	防火訓練、防火管理者研修へ参加している。また、急変時の対応マニュアルを作って指導を受けており、今後も継続して行っていきたい。また、消防署への自動通報装置も新たに設置を予定している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生に備えて、全ての職員と訪問看護師でミーティングや研修を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災、避難訓練の具体的な実施により、災害対策に備えている。また、昼夜問わず利用者が避難できる方法を身につけ、地域の人と顔なじみになり協力を得られるよう働きかけている。	○	地震など、具体的にカンファレンスを行い連絡網、点検、報告などについても地震対策訓練で実施し、防火訓練と共に今後も継続して取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時や家族会などで、説明し対応策を話している。	○	身体状況の変化に基づいて、医師や看護師から、転倒の危険性や誤嚥について説明を受ける機会を設けており、今後も継続していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	身体異常の早期発見には常に留意し、異常の変化もフローシートに記入し、様々な変化を記録に残している。	○	週2回、医師の訪問時連携を図っており、今後も継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的、副作用や用法、量について理解し、個人カルテにファイルして誰でも確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックリストや水分などを確認しながら、体操など体を動かすよう働きかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは必ず行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少なくなった時は、個人フローシートに記入し、一人ひとりの状態を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策の取り決めは、定期的に看護師を交えてミーティングや研修を行っている。また、感染症委員会に参加している。	○	ノロウイルス、インフルエンザ等の感染症の季節には、職員の体調チェック表を作成活用し、利用者への持込み防止に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防のため、台所調理器具は衛生管理を行い管理に努めている。また、衛生チェック表を記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	フェンスにはバラの花を植え、玄関周りには、プランターに季節の花を植えて工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール中央にテレビを置き、周りにソファを置き、ガラス戸の近くにもソファを置き利用者は居心地がよく、日光浴しながらのんびり居眠りをしている時がある。時には、外の子犬の様子などを見ながら犬と話をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を見つけて、共用空間でゆったりと自分の思いの中で過ごしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすや椅子など、馴染みのものを持参し、使い慣れた好みの物を活かして工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	喫煙は外で行い、換気や室温については、細めに入居者の体調に合わせた温度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	老人車、歩行器を使用することにより、自立した生活が送れている。また、洗濯たたみや洗い物をする人など、身体機能を活かして、自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力を活かして、自立して暮らせるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑には花や野菜を植えている。アウトドア用の長いすやテーブル、パラソルがあり、天気の良い日は外でお茶や食事をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者と一緒に買い物をして料理を作ったり、畑の草抜きや花作りなど、昔を思い出しながら職員とゆっくりした時間を過ごしており、バラの開花や夏の野菜収穫を楽しみにしている。年4回の家族会では、たくさんの家族が参加し、利用者と家族が楽しい一日を過ごすことができている。また、家族会にボランティアの方がたくさん参加し、季節の野菜など持参され料理作りを手伝ってくれている。ホーム内の活性化や利用者のリハビリのために、デイケアを活用したり、利用者の希望でコーヒーなどを作ってドライブに出かけたりして、外出の機会を設けている。